

令和6年度長久手市行政評価票（A票：事業評価票）					対象年度		令和5年度		
事業番号	26	事業名	アートスクール事業		担当課		生涯学習課		
					予算区分（款-項-目-中事業）		9-4-5-3 アートスクール事業		
			(大事業名) 文化の家企画事業		決算書ページ		235 ~ 一般		
I 基本情報	総合計画	基本目標	4	5 いつでも どこでも 誰とでも 広がる交流の輪		事業開始の背景	本市は、歴史の中で培われ継承・発展してきた風土や伝統文化を持ち、近隣含め、大学が多数存在し、地域には学生や芸術家、専門家が多数在住している。地域の特性と市民一人ひとりの個性を活かしつつ、人々が協力して新たな魅力ある文化芸術の創造を図る。豊かな地域社会が織りなす質の高い生活空間を創出することにより、市民がゆとりと潤いに満ち、生き生きと暮らしを営んでいるまちを目指す。		
		政策	1	7 市民参加の仕組みづくり					
		施策	(1)	7 市民参加の仕組みづくり			市民・民間事業者との連携協働の可能性 両者と協働可		
	その他	開始年度		開館時					
		終了予定年度		☐	年度	☒	未定		
		根拠法令等		文化芸術基本法、劇場・音楽堂等の活性化に関する法律					
	関連計画		ながくて未来図（長久手市第6次総合計画）（H31. 3） 第3次長久手市文化芸術マスタープラン（H30. 3）						
	事業の概要・目的	アウトプット（詳細はⅡへ）				アウトカム（詳細はⅢへ）			
		①事業概要 （どんな取組を行うのか）		②活動指標 （取組の進捗をはかるもの。 また、それがどうなるのか）		③中間成果 （①【対象】がどのような 状態に変わるのか）		④最終成果 （大事業の将来像）	
		【対象】 ☒ 市民 ☐ 事業者 ☐ 職員 ☐ その他 対象の数： 60,000人 【事業内容】 市の文化芸術政策の基本理念『ともに創る きらめく長久手』を実現するために、文化芸術 マスタープランの3つの基本方針のもと、 6つの事業に取り組む。事業については、重 点的な5つの施策を定め、今計画期間におい て特に力を入れて取り組む。これらの取組を 基礎にして、さまざまな分野に文化芸術を活 用していく。		【アクションプラン指標】 【その他の指標】 文化芸術マスタープランに 沿った多様な事業（公演鑑賞 事業や、講座、アウトリーチ 等）の開催。		市民に多様な芸術体験の機会 を提供する場が増加する。 （成果指標名） すべての事業での新聞等の掲 載回数		市民が芸術体験を通して、豊 かな心を育み、未来を生きる 楽しみと希望を見いだしてい く。また芸術活動を通じた市 民活動に参加することで、人 と人の絆を深め、誰もが孤立 しない社会が形成されてい く。	
				大 事 業 共 通					

[illegible]

Ⅲ 事業の成果・課題分析（アウトカムの詳細）	成果指標（CHECK）	成果指標名（中間成果をはかるもの）	単位	成果指標の推移と目標										
		すべての事業での新聞等の掲載回数	回	R3 年度		R4 年度		【現状】 R5 年度		R6 年度		R7 年度		
				58回		52回		35回		58回		60回		
		成果達成状況				指標目標値の根拠								
		C	A. 想定より良い B. 想定どおり C. どちらともいえない D. 想定を下回っている				事業の紹介記事が新聞等掲載されることは、広域への周知のみならず、事業の価値を客観的に市民に伝える根拠や裏付けとなるため。							
	評価の理由、分析													
	新聞記事の掲載は、コロナ禍で事業が減少した影響があり、一時期落ち込んだが、近年再び掲載数を増やしてきている。それでも掲載数に年度によっていくらかの幅があるため、地元新聞記者との関係性を構築し、定期的な事業の取材依頼を欠かさないことが必要となる。													
	加える変化（ACTION）	今後の方向性（3年～5年先）		今後の方向性の理由										
		A	A. 現状維持 B. 拡充 C. 縮小 D. 廃止		文化芸術マスタープランに沿い、今後も文化や芸術によるまちづくりを推進し、シティプロモーションとして文化や芸術が根付き、芸術家が活躍する市として、PRできる事業展開をしていく。									
		改善ポイント ※今後の方向性がAの場合は記入不要 (成果指標を踏まえ、総合計画基本目標達成のため、必要性、有効性、効率性、公平性、歳入確保の観点等から見直しの余地のある取組を記入)												
見直しの余地のある取組名		見直しの方向性	理由及び具体的な見直しの内容								見直し可能年度			
1		【改善】 アートスクール講座	☐ 拡充 ☒ 改善 ☐ 縮小 ☐ 廃止	形骸化を防ぐため、3年に1度、講座内容を変更していく。								R7～		
2		☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 縮小 ☐ 廃止												
3		☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 縮小 ☐ 廃止												

IV 費用	令和7年度予算の方向性（PLAN）	年度の費用（ 年度比）		3 年間の推移	(単位：千円)	R6年度	R5(2023)年度		R4(2022)年度				
		A	A. 現状維持 B. 拡充		事業費	予算	予算	決算	予算	決算			
			C. 縮小 D. 廃止			2,637	2,647	2,574	4,039	4,036			
		理由			特定財源	合計額	2,637	2,375	1,436	4,026	2,401		
		これまで何度でも事業費削減をしてお り、現事業費は開館時と比較すると半分 となった。開館当時から実装している文 化芸術マスタープランのミッションを遂 行するためには、現状維持を続ける。				(内 国費)							
						(内 県費)							
						(内 諸収入)	2,637	2,375	1,436	4,026	2,401		
						(内 その他)							
		積算額			一般財源		0	272	1,138	13	1,635		
		未定			年度予算の内訳 <細々節名、 予算額、（ 予算額）>								
					講座・講演等報償金 2,115千円（2,125千円） 消耗品費 22千円（22千円） 事業・公演等委託 500千円（500千円）								